

建築積算士2次試験・実技試験において
準拠する「建築数量積算基準」の発行年度についてのお知らせ

平成23年10月
社団法人 日本建築積算協会

- ◇ 建築積算士2次試験・実技試験に使用する、「建築数量積算基準」については、「平成18年版」に準拠いたします。
- ◇ 「平成23年版」については、本文の基準そのものは、「平成18年版」からの根本的変更はありません。
- ◇ 巻末の「参考資料」のうち、JASS5改訂に伴う変更はありますが、試験問題の設計図内に具体的な配筋基準が記載されていますので、「参考資料」は使用しません。
- ◇ したがって、試験当日「平成18年版」あるいは、「平成23年版」のいずれを持ち込まれても、特に支障となるものではありません。

以上

建築積算士2次試験・短文記述試験について 内容の補足説明

平成23年10月
社団法人 日本建築積算協会

短文記述試験は、今年度から2次試験において、実技試験に合わせて実施されるものです。ではどのような試験か、試験案内では次のように記載されています。

- ◇ 短文記述試験
 - ・試験時間：1時間
 - ・出題範囲：建築積算士ガイドブックのうち第1～4章、第9～15章を対象とする。
 - ・問題数：2問
 - ・問題形式：問題に対する解答を短文（200字以内）で記述。

- ◇ 試験案内の末尾に「二次試験の短文記述試験については、建築積算士ガイドブックから出題されますので、必ず熟読してください」と注意書きが有りますので、出題範囲の建築積算士ガイドブックの第1～4章、第9～15章をよく読んでおく事が一番重要であることはいうまでもありません。
- ◇ そのうえで、ポイントを外さずに200文字以内(文字数の範囲は問題で変わります)に簡潔に解答文を作成する必要があります。
- ◇ 短文記述試験は、論文（論述）試験と異なり、解答者の個人的な見解を問うものではありません。あくまでも、「建築積算士ガイドブック」のなかに記述されている内容に整合していることを判定基準とします。一字一句そのままに記述する必要はありませんが、ガイドブックに記述された内容を理解し、同等の意味合いを述べる必要があります。
- ◇ 平成23年度発刊の「建築積算士ガイドブック」第6章鉄骨工事から（実際にはこの章からは出題されません）、以下の設問と解答例を説明します。実際にガイドブック記載の内容は、84ページをご参照ください。

【設問例】鋼材のうち「電炉材」についての説明を、80字以上200字以内で述べなさい。

【解答例】スクラップの鉄を材料にして、製造された鋼材。電気炉によってスクラップを溶かすので、この名称がある。高炉材と比べると、コストは安いですが、不純物が蓄積される問題があり、品質面での課題はある。鉄筋や小型形鋼のシェアが高いが、最近は大型形鋼も製造されている。

以上

平成23年8月25日

建築積算士二次試験受験者 各位

(社) 日本建築積算協会
資格制度委員会

建築積算士二次試験受験者への重要なお知らせ

拝啓

時下ますますご清栄の段、お慶び申し上げます。

平素は協会活動に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、今年度より資格試験の内容が大幅に変更されました。建築積算士二次試験につきましても、昨年までの実技試験に加え、「短文記述試験」が実施されます。この「短文記述試験」は「建築積算士ガイドブック」に基づいて出題されますので、ぜひ「建築積算士ガイドブック」を熟読していただきますよう、お願い申し上げます。

敬具